

ことわざ珍道記—腐っても鯛—

清水 泰生

ポーランドから帰国して1週間もたたないうちに2019年4月7日の大邱国際マラソンに参加した。2019年4月6日14時ごろ（記憶が確かではない）関西空港を出発1時間20分ほどでテグ国際空港に着いた。空港についてからバスでテグ駅へ。歩いて、大邱国際マラソンの事前受付の場所へ。ところが受付らしき人がいない。役員らしき人と話したが、英語があまり通じずスマホのネットの音声翻訳で何とか会話。なんと前日受けがなくて、当日早朝7時から8時に来きてほしいとのこと。啞然だった。

それから、日韓交流ブックカフェ兼日本人ビジターセンター「大邱ハル」に向かった。17時ごろ到着。「大邱ハル」は日本語文化に詳しい専門家たちが日韓の国際交流の発展に貢献するために設立した文化活動を行う場所である。以前私がお世話になった臨南寺が出している『かな書き四書』を献本。そのあと近くの大衆食堂で食事。そしてホステルへ。その日は終わった。

そして次の日4月7日、6時に起きて歩いて会場へ800mほどの距離だったので楽であった。曇っていて、7時ごろなので肌寒い。受付で日本人のランナーと知り合い、一緒に受付をし行動、その人はハーフマラソン出場、私は10キロの部に出場だった。

マラソンは8時スタート、次にハーフ、10キロ、最後のスタートは三キロ。話によると参加者は、1万5000人ようだが実際は6000人あるかどうか。明らかにさばを読んでいる。10キロのコースは大邱のメインの通りで応援は日本ほど多くはないが、応援してほしいところに応援してくれてよかった。ゴールして完走メダルもらえると思ったがどうもメダルがないようだったので、水をもらい預けた荷物をもらって宿舎へ。宿舎で朝食を済ませ。宿舎を出て歩いてテグ駅に向かう。

なんと駅に向かう途中の大通りでメダルを掲げている人が大勢いるではないか。そんな馬鹿な…。早速、会場に行き抗議、「言ったもの勝ち」。それが実って完走メダルをもらった。しかしバナナ等をもらえなかった。それからテグ駅からバスに乗って空港へ。空港で会場で会った人と話をし、14時台の便で帰国した。今回、運営の緩さにあきれてしまったが「腐っても鯛」ではなくて「緩くても（世界陸連マラソン格付け）シルバーラベル」の大会であった。